

# アトピー性皮膚炎の治療薬

激しい痒みを伴う『アトピー性皮膚炎』皮膚のバリア機能が低下し、さまざまな抗原（アレルゲン）や細菌、刺激物質などが入りやすくなり、炎症細胞が活性化されて皮膚炎やかゆみを起こすと考えられています。



## 治療目標

治療目標は、症状がないか、あっても軽微で日常生活に支障がなく薬物療法もあまり必要としない状態に達し、それを維持することです。またこのレベルに到達しない場合でも、日常生活に支障をきたすような急な悪化がおこらない状態を維持することです。医師と患者様が目標を共有し両者が協働して治療を進めていくことが重要です。

## 治療法

基本の治療法は薬物療法です。塗り薬や内服薬などが用いられ、症状や年齢により使い分けます。

塗り薬を正しく使えていないと薬の効果が発揮されない場合があります。



治療を始めたら1日2回、毎日薬を塗ります。

一見皮疹のない綺麗な状態でも皮膚の下には炎症が残っていることがあります。

皮疹の消失が治療のゴールではありません。症状が治まっても指示通り塗り薬を塗る事で徐々に再燃しにくい皮膚に変わります。自己判断で頻度を減らすと悪化する可能性があるため、医師と相談の上決めて行きます。

アトピー性皮膚炎の治療は時間がかかることがありますが、しっかり薬を塗って治療を行い困った事があれば主治医に相談しましょう。

## 塗り薬の塗り方のポイント

### ① 必要量を手に取る

塗り薬を塗る適量というのは『1FTU（フィンガーチップユニット）：人差し指の第一関節から指先まで薬剤をしっかりと太く出した量』が大人の手のひら約2枚分の広さを塗る必要な量です。

### ② 両方の手のひらにまんべんなく塗り広げる

### ③ 塗りむらを防ぐために指を閉じてしわに沿って塗る

- ・皮疹部だけでなく皮膚の下に炎症が存在しているため非皮疹部にも塗ります。
- ・患部にある程度の厚みをのせるイメージで塗ります。すり込むように塗ると、摩擦で患部が刺激され、炎症が増悪するので、患部を刺激しないように塗ります。目安はティッシュが皮膚にくっつく程度です。
- ・全身に塗る場合、塗る時間は5分を目安に塗ります。



診療予約は  
こちらから

電話予約：0799-62-5566（診療時間内）

ネット予約：<https://ssc6.doctorqube.com/soyama-clinic/>（24時間対応）

\* 携帯電話からは右のQRコードからでも予約できます \*

